

公益財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

2023(令和5)年度 事業報告書

目次

I. 2023年度の総括.....	1
II. 個別事業.....	2
II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む...	2
II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる.....	8
II-3 公害経験を伝える国際交流.....	14
III. 情報発信・提案活動・交流.....	16
IV. 組織.....	18

I. 2023 年度の総括

2023 年度においても、①「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組む、②公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる、③公害経験を伝える国際交流（情報発信・研修）を事業の 3 本柱として取り組みを行った。概要は以下の通りである。

- ① 「環境・福祉・防災・文化・生業」から、西淀川の地域再生に取り組む」事業では、区内の地域資源（もと歌島橋バスターミナル、大野川緑陰道路、福駅周辺など）を活かしたみてアートやにしよど音楽祭、西淀川アートターミナル（NAT）活動、福駅周辺のまちづくり構想の検討などを区内の様々な団体や個人の協力を得ながら行い、自転車を活かしたまちづくりの推進事業でも約 300 人の参加で大阪サイクルピクニックを行った。また、公害健康被害補償法（公健法）被認定者の療養生活に係る調査業務では、年代、性別、生活状況の異なる被認定者のインタビュー動画 3 本を作成し、防災まちづくりでは、にしよどがわ親子防災部を中心にして防災の啓発活動などを行った。さらに、西淀川区から受託しているまちづくりセンター業務においては、各地域との信頼関係を築きながら支援活動を行っている。
- ② 「公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる」事業では、区内を中心に小中学校への講師派遣や各大学のゼミ、環境省・環境保全機構等の研修受け入れ、公害に係る「オーラルヒストリー」作成のため弁護士等へのインタビューを行った。さらに、資料整理については新規の資料以外の資料整理が終わり、資料研究会を重ね、資料集に載せる資料の選定など 2025 年度での資料集の作成に向けた作業を進めている。
- ③ 公害経験を伝える国際交流では、中国の環境 NGO とオンラインによる講演会を行い、環境 NGO のメンバー 4 名の研修も受け入れた。また、ベトナムとインドを訪問して、各地域での環境活動の調査と環境 NGO との交流を行った。
- ④ 財団運営の面では、少人数での業務執行を余儀なくされているが、財政的には基金からの取り崩しを最小限にするなど改善が見られている。

II. 個別事業

II-1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

2023年度目標

- 様々なステークホルダーとの協働を行い、地域の視点から現状・課題・展望を整理し、2025年大阪万博の開催も視野に入れて、西淀川地域の資源（もと歌島橋バスターミナル跡地、西淀川高校跡地、福駅周辺、空き家などの未利用地）を活用した新たな地域再生プロジェクトの策定などの将来マスタープランづくりや、その実現に向けたロードマップづくりを進める。
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響から公共交通の利用者が減少していることを踏まえて、改めて、他団体とも協働し、今後の交通のあり方の検討を進める。

2023年度取り組み

26 地域づくり推進・再生

1. 地域再生：地域資源の活用によるまちづくり

① 事業のねらい

- 地域資源の現状・課題を整理し、住みたいまち、働きたいまち、安心できる暮らし、うるおい・文化のあるまち、誰もが生きやすいまち、公害を教訓とした環境再生のまちづくりを進める。

② 実施内容

- もと歌島橋バスターミナルにおいて、ミニ四駆大会（4月）、西淀川ボランティアエキスポ（5月）、ベイブレード&献血（7月）、西淀川フードバンク（9月）、みてアート（11月）、NAT企画展（2月）を開催、新たな地域交流拠点として定着しつつある。
- 10年後の福駅周辺のまちづくり構想を検討する、福駅周辺活性化協議会を昨年6月に発足させ、今年10月より大阪市専門家派遣制度を活用することとなった。大阪公立大学「EJ ART」プロジェクトで福地域を舞台に作品作りを行なった。また、福駅周辺の活性化を目指して、福ハッピーフェスタ（5/14、8/6、12/3）を開催。にしよどがわシーサイド桜まつり（3/23）を予定していたが雨天中止。
- 2019年4月より、大阪市立大学・除本理史教授、龍谷大学・清水万由子准教授の協力により、西淀川区を中心に、大阪の経済・産業（特に製造業）の将来像について検討する「西淀川・地域再生研究会」を継続。

③ 成果と課題、今後に向けて

- 西淀川区内の地域資源（もと歌島橋バスターミナル、大野川緑陰道路、淀川河川敷、福駅周辺など）を活かして、地域の活性化に貢献する取り組みに実施し、様々な団体や個人の協力を得て、継続的に活動を行うことができた。福駅周辺については、専門家派遣制度により活動資金の確保ができた。持続できる体制づくりが今後の課題である。

2. 交通再生：交通マネジメントセンター機能の強化

1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進

①事業のねらい

- ・ 患者会の願いである「手渡したいのは青い空」を実現するために、人にも環境にもやさしい地域交通まちづくりを目指して、西淀川道路環境対策連絡会、実務者ワーキング会議を通じて、原告、弁護士と協働で取り組む。

④ 実施内容

- ・ PM2.5 の濃度は、4 年連続で西淀川区内のすべての測定局において環境基準を下回ったことを確認した。6/29 のワーキング会議では環境ロードプライシングのPRの利用促進に向けた利用実態調査結果について議論した。
- ・ 西淀川道路交通環境再生プラン会議を再開し、新型コロナの影響・公共交通の利用者減を踏まえ、脱炭素社会に向けて、他団体とも協働して、今後の交通のあり方を検討し、西淀川交通・道路環境再生プラン・提言 part7 の策定を進めた。

	項目	日程
道路連絡会	実務者ワーキング 1 回目 (大気、交通量等)	6/29
	実務者ワーキング 2 回目 (大気、交通量等)	1/24
	道路連絡会準備会	2/5
	道路連絡会	3/14
研修	大阪大学交通まちづくり学授業 (谷内)	5/8

③成果と課題、今後に向けて

- ・ PM2.5 濃度が 4 年連続で環境基準を下回り大気汚染は改善しつつある。
- ・ 西淀川道路交通環境再生プラン会議を再開し、提言 part7 策定を進めていく。

2) 自転車を活かしたまちづくりの推進

35 自転車文化

37 タンデム自転車

29 CCSP

23 西中島自転車

①事業のねらい

- ・ 大気汚染や渋滞などの深刻な交通問題を引き起こす車の代替手段として、環境にも健康にもやさしい自転車の利用の推進をはかる。
- ・ 誰もが移動しやすい交通環境づくりを目指して、移動困難者を対象としたユニバーサル・サイクルの調査・提案、情報発信を行う。
- ・ 他団体・個人と協働した「御堂筋サイクルピクニック」・「おおさか自転車文化タウンづくりの会」の実施を通じて、大阪における自転車まちづくりの推進を図る。

②実施内容

- ・ 自治体等からの依頼により、子ども自転車教室、インクルーシブサイクリング体験会などを企画、実施。
- ・ 9/18 に大阪サイクルピクニック (自転車文化タウンづくりの会) を実施、70 台で御堂筋をアピール走行 (来場約 300 名)。

項目	内容	日程	参加人数
自転車文化タウン	第 2 回大阪サイクルピクニック	9 月 18 日	300 人
市民自転車学校プロジェクト	堺区子ども自転車教室	7 月 30 日	100 人
		9 月 10 日	80 人
		10 月 28 日	70 人

	四日市市子ども自転車教室	9月24日	30名
	京都市インクルーシブサイクリング体験会	10月14日	125名
	滋賀県日野町子ども自転車教室	11月8-9日	70名
	CMA 子どもサイクリング教室	3月17日	
インクルーシブ・サイクル	スマイル タンデム自転車貸し出し	3月19日	
	南さつま市タンデム自転車体験会	3月3日	12名
	タンデム自転車の貸し出し	通年	

③成果と課題、今後に向けて

- ・新型コロナ、雨天中止などから久しぶりに大阪サイクルピクニックを開催できた。
- ・子ども自転車教室やインクルーシブサイクリング体験会を開催することができた。
- ・全国的にニーズが高まっており、対応できる体制づくりが求められている。

3. 安全再生：防災まちづくりの推進

33 親子防災

15 災害支援

①事業のねらい

38 防災まちづくり

- ・大阪湾岸地域は、典型7公害の1つである地盤沈下のために、津波や水害のリスクが高くなっており、南海トラフ巨大地震や近年頻発している水害などの災害に備え地域の防災力を高める必要がある。そのために、西淀川地域をはじめ、各地区の多様な主体と協働し、防災まちづくり、防災教育の取り組みを進める。

②実施内容

- ・西淀川区令和5年度地域防災・減災に関する連携強化事業を受託し、①若年層への防災意識向上への取り組み、②避難行動要支援者避難支援の取り組みを行っている。あおぞら財団が培ってきた地域防災に関するネットワークや教材（防災絵本やかるた等）を用いて事業を遂行している。
- ・外部の組織と連携して活動している「にしよど親子防災部」（事務局：あおぞら財団）では、JR西日本あんしん社会財団の助成を受け、防災散歩や地域イベントに参加し、防災の啓発活動を積極的に実施している。

項目	内容	日程	参加人数
西淀川区地域防災・減災に関する連携強化事業	①若年層への防災意識向上への取り組み		
	・柏里小学校 防災授業講習会（教員）	4/21	20人
	・柏里小学校 防災授業	5/27	279人
	・大和田小学校 防災授業（教材のみ）	6/2	352人
	・香簀小学校 防災授業講習会（教員）	8/17	10人
	・佃西小学校 4年生防災授業（教材のみ）	9月	96人
	・出来島小学校 防災授業（教材のみ）	11/25	223人
	・香簀小学校 防災授業	11/26	193人
	・淀中学校 防災授業（中2）	11/13	154人
	・段階的防災教育プログラムの作成		
	・動画5本作成（防災さんぽ、防災漫才）		
	②避難行動要支援者避難支援の取り組み		
	1回目 避難支援推進会議	5/31	
	第1回 福祉避難所連絡会	6/12	
第2回 福祉避難所連絡会	8/21		
個別避難計画研修会	8/21		
福祉避難所合同訓練	11/12		
2回目 避難支援推進会議	12/13		

にしよど親子 防災部	ミーティングの開催	5/11、8/9、 9/7、10/2、 12/8、1/31	約 10 人
	にしよど防災さんぽ	4/8	40
	ボランティアエキスポ	5/28	100
	おやこぼうさいブック改訂版の発行	3 月末	
	にしよど防災かるた大会	8/10	子ども 50 大人 15
	にしよど防災ロゲイニング	12/2	32

③成果と課題、今後に向けて

- ・西淀川区地域防災・減災に関する連携強化事業では、今年度は段階的防災教育プログラム西淀川モデルを西淀川区内外全体への取組みに拡充する予定である。
- ・にしよど親子防災部は活発な活動を行っているが、新しいメンバーの確保、活動の財源の確保が課題である。

4. 健康再生：地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及

61 公健法実態調査

①事業のねらい

62 COPD プロジェクト

- ・呼吸ケア・リハビリテーションに係る医療従事者等の人材を育成・活用することで地域の患者へのプログラムの充実及び地域住民への COPD に係る情報発信を強化し、これにより COPD 患者の早期発見及び QOL の向上を図ることを目的とする。

②実施内容

- ・呼吸器疾患の患者向けに「楽しく呼吸会」を隔月開催し、自己管理、運動、栄養、薬などの面から呼吸ケア・リハビリが学べるプログラムを実施した。
- ・環境省より、公害健康被害補償法（公健法）被認定者のインタビュー動画の作成に係る調査業務を受託し、対象者との調整、映像の記録・編集などを行った。
- ・西淀川区健康いきいき展に参加し、肺年齢測定を実施し、COPD の早期発見、啓発活動に取りくんだ。

項目	内容	日程	参加人数
楽しく呼吸会	みんなで歩こう 矢倉公園	5/12	9 人
	自己管理・呼吸筋ストレッチ体操	7/14	13 人
	栄養について	9/8	9 人
	呼吸リハビリ、運動、体力測定	11/10	12 人
	お話会、DVD をみながら呼吸筋ストレッチ体操	1/19	7 人
	薬について	3/8	9 人
健康いきいき展	肺年齢測定	10/28	45 人

項目	対象者	サブタイトル	時間
環境省 公健法被認定者イ ンタビュー動画	40 代女性	幼いころから公害病と向き合い続ける	19 : 16
	50 代男性	公害病に聴力まで奪われて	18 : 02
	60 代男性	公害と闘いながら、高度経済成長期を生き抜いてきた	20 : 12

③成果と課題、今後に向けて

- ・患者向けの呼吸ケア・リハビリテーションについては、びわこリハビリテーション専門職大学の千住先生、淀川勤労者厚生協会など外部の協力を得ながら、実施している。参加者が少なく、活動の費用の確保の面で課題がある。
- ・次年度からは西淀川区の検診時に行っていた肺年齢測定を再開する予定である。

- ・環境省の受託を受け、年代、性別、状況の違う3人の公健法被認定者のインタビュー動画を3本作成した。成果物は環境省のyoutubeに掲載される予定である。

5. 交流再生：地域の交流（コミュニティ）再生、交流拠点の活用

1) 交流拠点（イコバ）

31 交流拠点（イコバ）

①事業のねらい

- ・2010年12月に開設した地域交流スペース「あおぞらイコバ」を活用し、定期的な企画展やイベント開催、ホームページやチラシなどの情報発信によって、認知度を高め、利用者増を図る。

②実施内容

- ・レンタルスペースとして随時貸出をおこなっている。
- ・あおぞら市は、毎月第二、第四水曜日に実施している。安価な手作り野菜、天然酵母パン、マッサージなどの出店者があり、利用者には好評である。
- ・小学生や中学生に学習支援をおこなっている「無料塾」に継続してあおぞらビル3階や5階を毎週金曜日の夕方に、無料で貸し出しを行っている。
- ・あおぞらイコバは、「にほんごカフェ」（主催：西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画、西淀川ささえあいプラン「にしよどウェルカムバンク」）による利用（月2回）や、西淀川地域の情報発信をおこなう「ニシヨド編集部」の利用（毎週1回）が継続された。

③成果と課題、今後に向けて

- ・コロナ禍以前に利用していた三線サークルの利用が再び始まるなど、少しずつ利用が増えている。

2) 西淀川区まちづくりセンター業務

27 まちづくりセンター

①事業のねらい

- ・西淀川区からの受託している西淀川区まちづくりセンターの業務を通して区内の地域活動の支援を行う。

②実施内容

- ・令和5年度「大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業」を街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究とともに受託。西淀川区まちづくりセンターの設置・運営し、アドバイザー藤江、スタッフ（鎗山・谷内）として区内地域活動を支援。

③成果と課題、今後に向けて

- ・2018年度から6年目となるまちづくりセンター業務であるが、各地域との信頼関係の下、支援活動を行った。

3) その他 地域づくり推進業務

①事業のねらい

- ・子育て、外国籍住民との共生、ものづくり、福駅周辺活性化、空き家・跡地利用などの地域の様々な取り組み、団体と連携するとともに、西淀川区の地域福祉計画・地域福祉活動計画等にも協力する。

②実施内容

- ・ 「西淀川区地域福祉計画・地域福祉活動計画 西淀川ささえあい♡あいプラン」に基づく部会の一つ「ウエルカムバンク～ウエルカムな気持ちを預けるバンク～」部会に協力し、にほんごカフェ開催（月二回）など、多文化交流を進めている。
- ・ 9月17日に、もと歌島橋橋ターミナルで開催された第10回西淀川フードバンク（食料無料支援）に参加・協力した。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 外国籍住民との共生を目指した「にしよどウエルカムバンク」活動では、あおぞら財団に事務局を置き、大阪市ボランティア活動振興基金の助成金を受けて、区内日本語学校などとの協力関係が広がった。

6. 文化再生：西淀川の資源を活かした環境文化をつくる

28 音楽祭

1) みてアート・にしよど音楽祭

81 みてアート

①事業のねらい

- ・ 西淀川を市民が地域（フィールド）全体から地域の歴史、文化、ものづくりを楽しむことができるフィールドミュージアム構想の具体化事業の一つとしてアートイベント「みてアート」、「西淀川アートターミナル（NAT）」を実施。アートをきっかけに、西淀川地域の様々な資源を掘り起し、西淀川区の人達が出会い交流し、新たな地域文化を育むことを目指して、地元企業や様々な団体・個人と協働して開催。

②実施内容

- ・ みてアート2023を11月4-5日に開催した（30拠点が参加）。
- ・ 2023年度より、西淀川区制100周年（2025）に向けて、にしよど音楽祭をスタートし、8月・11月に実施した。
- ・ NAT企画として「ニシヨド宴会ラジオ」を2月17-18日に、もと歌島橋バスターミナルにて開催。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 11年目となった「みてアート」は新たな体制で市民参加型アートイベントとして実施することができた。引き続き、NAT企画展と併せて、継続していく。
- ・ 初めての開催となった、にしよど音楽祭ではアーティストや様々な団体の協力を得て無事に開催することができ、地域の音楽文化の醸成につながった。

2) 身近な自然を活かしたイベント

25 身近な自然イベント

①事業のねらい

- ・ 西淀川の身近な自然を活かしたイベントを通じて、多くの人が西淀川地域の自然環境や歴史に触れる機会をつくる。

②実施内容

- ・ 「矢倉海岸・緑陰道路探鳥会」は野鳥の会大阪支部との共催で年に3回実施している（4/16、8/26、2/23）。また、探鳥会を西淀川区と民間企業等との協働事業として実施することになり、区報を活用して広報を行った。

- ・ 11月18日に開催される「西淀川区学びの区民講座」に講師として参加し、矢倉緑地公園の解説を行う予定である。
- ・ 9月23日(土)に「第11回淀川環境美化・西淀川親子ハゼ釣り大会 ～SDGsをはじめようの第1歩～」を実行委員会形式で開催。約50名の参加者は例年を上回る釣果を得て、楽しみながら身近な自然に親しみ、SDGsを学ぶ機会となった。
- ・ 3月27日(水)に「第3回矢倉緑地プラスチックごみゼロアクション」が西淀川区主催で開催され、あおぞら財団も協力した。一般参加者は14人である。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ ハゼ釣り大会は、引き続き、実行委員会形式で他団体と協働で継続していく。
- ・ 探鳥会は、引き続き、野鳥の会大阪支部と共同で年に3回開催する。

3) 菜の花プロジェクト

22 菜の花

①事業のねらい

- ・ 持続可能な社会づくりを目指して、「エコでつながる西淀川推進協議会」と協働で、西淀川菜の花プロジェクトとして、廃油回収システムを継続し、菜の花栽培などの啓発活動を適宜、実施する。

②実施内容

- ・ 継続的に廃油回収拠点として回収事業を実施している。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 継続的に廃油を持参してくれる人がおり、環境負荷を減らす取り組みとして定着している。バイオ燃料としての活用や廃食用油回収が大阪万博 EXPO グリーンチャレンジに取り上げられることになり、改めて注目されている。

11 JEC 管理

26 地域づくり推進

34 啄木鳥プロジェクト

39 太陽光発電

82 多文化共生

5) その他

- ・ 西淀川の良さや面白さを SNS 等で発信・共有する「おもしろいわ西淀川」を行っている。西淀川区の魅力発信サポーターとの連携もしており、西淀川区の広報紙に隔月で連載している。
- ・ 2022年度より、新型コロナウイルス対応緊急支援助成(休眠預金)の資金分配団体として、認定NPO法人日本都市計画家協会(JSURP)とともに採択され、募集・審査、実行団体の決定、伴走支援を行った。併せて、2023年度事業にも採択(12月)され、募集・審査、実行団体の決定を行った。
- ・ 日本環境会議(JEC)の会員・会費管理の業務を2020年度より請け負っており、2023年度も引き続き業務を行った。
- ・ 嘉手納爆音問題に関する調査への協力を行った。

II-2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

2023年度取り組み

- 行政、医療機関、大学などの研修の受入れ、講師派遣などを行ったほか、公害、気候変動、防災に関する当財団独自の教材を作成した。作成した教材はWEBで発信している。
- 資料館業務については、資料集の作成を進めるとともに、日常的な業務（資料整理・保存・活用）を見直し、持続可能な体制づくりを図る。COVID-19感染予防を図りつつ、受託業務として、記録で見る大気汚染と裁判 HP、淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務などを進める。

1. 公害教育・研修センター機能の強化

1) 教育・研修の推進

(1) 講師派遣・研修受入

52 教育・研修推進

①事業のねらい

- ・ 公害の経験から学ぶ研修の打ち出しを軸にしつつ、あおぞら財団の活動を総合的に生かした講師派遣・研修受入の可能性を探る。※COVID-19など感染症のリスクを考慮しながら、オンライン講座等 WEB の有効活用を検討。ポストコロナ社会の変化に応じた研修内容を検討する。
- ・ 地域再生の取り組みや、防災研修・(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)などのまちづくり事業の蓄積を積極的に活用し、人材育成に取り組むとともに、理事等の協力を得る。
- ・ 環境再生保全機構職員研修や自治体職員研修を実施することを追求する。
- ・ 研修受入については、主に近畿圏の大学教員への発信・働きかけを強め、新規開拓をする。
- ・ 国際交流事業と連携し、研修資料等の英語版作成を検討する。

②実施内容

- ・ 講師派遣 年間派遣数 11 件（前年度 16 件）、受講者 960 人（前年度 1322 人）

分野	内容	日程	人数
公害	淀川勤労者厚生協会 新人研修	4/4	32
交通	大阪大学交通まちづくり学	5/8	40
防災	柏里小学校 防災授業の支援	5/27	279
コミュニティ再生&アート	大阪公立大学中川眞先生授業	7/13	7
公害・地域づくり	桃山学院大学・風岡先生より	7/21	15
公害	大阪市教職員研修	8/21	60
気候変動	豊中市立新田小学校 4年生フードマイレージ	9/8	120
気候変動	堺市立日置荘小学校フードマイレージ&自転車	9/26	40
防災	淀中学校 防災授業	11/13	154
地域づくり	西淀川区まなびの講座 矢倉緑地での講師	11/18	20
防災	香籠小 防災授業	11/26	193
自転車	市民自転車学校(CCSP 事務局:あおぞら財団) 子ども 自転車教室: 堺区、四日市市、吹田市、日野町		

※防災、地域づくりは再掲

- ・ 研修受入 年間受入数 20 件：前年度 10 件、受講者 304 人（前年度 120 人）

分野	内容	日程	人数
公害・地域づくり	龍谷大学政策学部清水ゼミ	通年	25
地域づくり	大阪公立大：地盤沈下フィールドワーク	6/23	4
防災・地域づくり	関大越山ゼミ フィールドワーク	7/6	9

公害	環境省職員研修 事前学習会 (オンライン)	7/21	20
公害	龍谷大学政策学部清水ゼミ 活動報告会	7/23	25
公害	環境省職員「環境問題史現地研修」	7/27-28	22
公害	大阪同企連啓発研究会チームA研修	8/31	10
公害	龍谷大学政策学部清水ゼミ フィールドワーク	9/4	13
公害	立命館大学法学部石橋ゼミ 研修	9/7	10
公害	大阪公立大学医学部医学科 研修	9/11	6
公害	龍谷大学政策学部清水ゼミ 研修 (WS および公害語り部)	9/15	13
公害	龍谷大学政策学部清水ゼミ インタビュー撮影	10/18	14
公害	大阪公立大 公害語り部の会	10/22	10
公害	滋賀県立大学村上ゼミ	10/26	5
公害	追手門大学 藤吉ゼミ	11/11	11
公害	環境再生保全機構	11/16-17	20
公害	関西大学 社会学部 大門ゼミ	11/27	15
地域づくり	大阪公立大学大学院「都市基盤計画特論」(吉田長裕准教授)	5回	延 25
公害	鳥取県立八頭高校修学旅行	12/7	40
公害	大阪狭山市 企業人権協会	2/29	7

※防災、地域づくりは再掲

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 環境省および環境再生保全機構の職員研修の受入れを行うことができ、公害行政の担い手が公害地域の現状を深く理解する一助となった。
- ・ 講師派遣および研修の依頼は継続のものが多く、新規の依頼を広げることができていないことが課題である。

(2) 学校・地域における公害教育の推進

①事業のねらい

- ・ 資料館が西淀・環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」の認定施設であることを活用し、引き続き大阪市・府・国などに、公害の経験を伝える教育を位置付けるよう働きかける。
- ・ 公害教育の担い手を育成するため、教員研修への講師派遣や独自企画を検討する。
- ・ 引き続き西淀川区内の小・中学校での出前授業を実施する。
- ・ まちづくり部門と連携して、西淀川区内の中学高校とのつながりを強化する。

②実施内容

- ・ 「体験の機会の場」HP 掲載内容、その他取り組みについて調整。
- ・ 西淀川区小学校校長会にて、公害語り部の出前授業について紹介。

分野	内容	日程	人数
公害	西淀中学校 語り部の授業	11/1	150
公害	佃小学校 公害出前授業	2/5	30

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 公害語り部の授業は2校で実施することができた。次年度以降、小学校だけでなく中学校へのはたらきかけを行い、公害語り部の授業を継続して行い、実施校を増やす。

2) 教材開発・研修プログラム等の整備・普及

(1) 西淀川公害に関する教材開発・研修プログラムの整備

①事業のねらい

54 気候変動 プログラム

- ・ 2022 年度からの「総合的な探究の時間」に対応するために、「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成の担い手育成のため、ロールプレイ教材を活用した研修プログラム・解説資料作成に取り組む。その成果はWEBで発信する。

②実施内容

- ・ あおぞら財団研修・教育に関する web ページを新規で作成し、教材を web で発信し、寄付による支援の呼びかけ等を行っている。
- ・ フォトランゲージおよびロールプレイ教材を研修で活用し、成果も得られている。広く活用してもらえるように研修プログラムの紹介、情報発信を行う必要がある。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ あおぞら財団で作成した個々の教材の普及をはかると同時に、各教材を組み合わせる活用できるように、次年度以降は教育パッケージを検討する。

(2) 気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり

①事業のねらい

- ・ 地球環境基金助成を受け、「誰一人取り残さない！気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり」に取り組む。・ ハンドブックや web ページの精査、動画の作成に取り組む。

②実施内容

- ・ 活動内容は「1) 気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発」「2) 公害の経験から、課題解決の行動に向けた市民教育プログラムの開発」「3) 『誰一人取り残さない』ための教育手法の検証」である。

項目	内容	研究会日程
気候変動を構造的にとらえ未来につなげる教育プログラムづくり	1) 気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発。ハンドブックの作成 気候変動×防災×公害ハンドブック体験会	7/10 体験会 3/26 (10名参加)
	2) 公害の経験から、課題解決の行動に向けた市民教育プログラムの開発。 ・ オーラルヒストリー (動画・文章) ・ 龍谷大清水ゼミの協力による動画の作成	6/5、1/26
	3) 『誰一人取り残さない』ための教育手法の検証。冊子「誰一人取り残さない教育のために」発行	6/20、8/18、 10/25

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 事業を通して、「気候変動×防災×公害ハンドブック」、公害オーラルヒストリー、インタビュー動画、冊子「誰一人取り残さない教育のために」を作成することができた。
- ・ 作成した教材、動画を活かした研修、教育を検討し、他の教材との組み合わせも考慮して普及をはかる。

(3) 公害に係る「オーラル・ヒストリー」作成業務

①事業のねらい

- ・ 公害に係る当事者への聞き取りを行い、まとめ、環境行政に取り組む人々を主な対象とした研修副読本を作成する。

②実施内容

- ・ 公害患者、工場経営者、元神戸製鋼、弁護士にインタビューを行い、オーラルヒストリーとして文章にまとめた他、動画を作成した。一部は龍谷大の協力を得た。

対象者	成果物	協力者
公害患者	・動画「青空は当たり前ではないことを伝えたい」 ・テキスト	龍谷大清水ゼミ
公害患者会事務局 局長	・動画「公害患者に寄り添って困りごとを解決していく」 ・テキスト	龍谷大清水ゼミ
工場経営者	・テキスト「公害の街西淀川の工場経営者として」	龍谷大清水ゼミ
元神戸製鋼訴訟 担当	・動画「元被告企業の法務担当からみた西淀川公害裁判について」	—
弁護士	・小冊子「私をつくったまち 西淀川 ～終わらない平和運動の原点～」としてまとめた。	清水万由子さん

③成果と課題、今後に向けて

- ・西淀川公害に関して、患者だけでなく、企業にもインタビューを行いテキストと動画でまとめ、インタビュー対象者の了承を得て、web等で公開している。動画やテキストは研修や授業の事前・事後学習として活用を目指している。
- ・龍谷大清水ゼミの協力を得て、テキストや動画を作成している。インタビューやオーラルヒストリーの作成プロセスの中で、学生自身が公害について学びを深めるなどの教育効果が得られている。

(4) 教材・パネル等の貸出

①事業のねらい

- ・「フードマイレージ買い物ゲーム」の貸出を引き続き行う。

②実施内容

項目	内容	貸し出し時期
買い物ゲーム	横浜市立六浦南小学校	8月
	豊中市小曾根小学校	10月
動画	名古屋リビング新聞社「あいち農林水産フェア」	10/14

(5) 地域づくりと連携した教材開発

①事業のねらい

- ・「段階的防災教育プログラム」や「自転車教育」など地域づくりで作成した教材を研修プログラムと連携して活用する。

②実施内容

- ・「段階的防災教育プログラム」は、西淀川区内の小学校での活用をすすめている。
- ・教材については、webページに掲載し、情報発信を進めている。

http://aozora.or.jp/kougai_lecture/

③成果と課題、今後に向けて

- ・地域づくりと連携した教材の活用、普及をすすめる。

(6) あおぞら財団としての公害・環境教育・研修のあり方に関する検討

①事業のねらい

- ・あおぞら財団役員・職員、及び、関係者に呼びかけて、あおぞら財団の公害・環境教育・研修のあり方の現状の確認し、今後のあり方についての検討する場を設ける

②実施内容

- ・あおぞら財団の研修に関する定例会を2か月に1回の頻度で開催する。(7/23、10/18、12/7、3/19に実施)
- ・定例会では、今後の研修の進め方、研修の方針などについて検討する。

③成果と課題、今後に向けて

- ・検討した「あおぞら財団の研修・教育の方針」はホームページに掲載する。
- ・引き続き、定例会を開催し、今後の研修の進め方や作成した教材について組み合わせを含めて活用や普及方法を検討する。

2. 西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の運営

1) 西淀川・公害と環境資料館の資料管理・資料活用をすすめて、利用者を増やす

41 資料館運営

42 資料館基金

48 資料集作成

①事業のねらい

- ・西淀川・公害と環境資料館が日常的に運営を継続する。そのために、西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）の資料の整理を進める。
- ・資料館を地域の人に使ってもらう、関心をもってもらえるよう、みてアートなど地域イベントへの参画、地域資料を用いた企画展の開催などを行う。
- ・資料館が有する既存資料をもとに、資料館にどのような資料があるのか、その資料からどのようなことが分かるのか、を改めて、広く知ってもらうため、また、多くの方に資料を活用してもらえるように資料集の作成を行う。
- ・資料集の作成にあたっては、もと柏里診療所を分室として活用し、資料集作成委員会にて、編集方針などを検討。時代別、または、テーマ別（例えば、都市公害）に資料整理を進め、継続的に資料紹介を行う。
- ・淀川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理・活用業務に関しては、COVID-19 の感染予防に配慮した上で、資料の整理・保存・活用を検討する。

②実施内容

- ・来館者 2023 年度 612 人 累計（2006 年開館から） 6,979 人（3/31 時点）
- ・資料の整理・目録作成作業、文書箱への移し替えを順次進めた。
入力点数 大目録 74（累計 2962）、細目録 108（61,494）（3/31 時点）
- ・資料集作成に向けて、エコミュージズ所蔵の資料を検討する勉強会を 2021 年 10 月から月 1 回のペースで行っている。4/17、5/22、6/15、7/13、8/17、9/21、10/26、11/20、12/21、1/25、2/29、3/28
- ・専門家からなる「資料集編集委員会」を開催し、資料集について検討を行っている。メンバーは小田館長、佐賀朝氏（大阪公立大学教授）、松岡弘之氏（岡山大学文学部准教授）。4/3、6/19、8/21、10/30、12/25、2/27
- ・（公財）淀川勤労者厚生協会の資料整理を再開した。同協会の旧役員室及び、姫島診療所建物内にある資料室の資料を活用できるようにするための整備について、検討を行い、2023 年度は旧役員室の資料を 835 件、西淀病院図書室の資料を 272 件目録作成を行った。
- ・みてアート 2023（11/4-5）に、西淀川・公害と環境資料館（エコミュージズ）として企画展「昔の西淀川区の川と水辺の風景～大野川と中島大水道～」を開催し、2 日間で 309 人が来館した。
- ・2022 年度エコミュージズ活動報告書を 10 月に発行した。

- ・ 福島区公害患者と家族の会の事務所が閉鎖されるにあたって、段ボール2箱分ほどの資料を受け入れた（9月・2月）。また、名古屋の患者会からもダンボール1箱の資料を受け入れた（11月）。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 資料整理については、新規の資料以外は未整理の資料はなくなった。
- ・ みてアートでの企画展の開催により多くの人に来館してもらうことができ、認知度が高まった。
- ・ 資料集作成については当初の予定よりも資料の調査と選定に時間がかかっているが、おおむね、選定のめどをつけることができた。2025年度内での完成をめざして引き続き作業を進める。
- ・ 淀川勤労者厚生協会の資料整理を再開することができたが、日常的に利用される状況にまでは至っておらず、今後の課題として残った。

2) 公害資料館ネットワークに参画し、公害資料の保存と活用を推進する

43 資料館連携

①事業のねらい

- ・ 各地での公害を伝える組織・個人の交流・連携・協働をめざす「公害資料館ネットワーク」に参画する。

②実施内容

- ・ 公害資料館ネットワーク総会（6月18日 オンライン参加）・幹事会への参加。

③成果と課題、今後に向けて

- ・ 引き続き、参加し、他団体と連携していく。

3) 各地の公害地域の資料整理・保存・活用を支援する

44 大気汚染と裁判HP

①事業のねらい

- ・ 環境再生保全機構のホームページサイト「記録で見る大気汚染と裁判」の充実、及び、他の公害地域資料の整理・保存・活用を支援する。
- ・ 同HPサイト上での個人情報保護資料のあり方について、検討・提案する。

②実施内容

- ・ 環境再生保全機構と適宜、協議を行っている。

③ 成果と課題、今後に向けて

- ・ 環境再生保全機構との協議は進展がないままではあるが、独自で、資料を公開できる仕組みを並行して検討、準備していく。

II-3 公害経験を伝える国際交流

2023年度の取組み

- ・ アジア地域への新たなネットワーク・交流に向けて、取り組む。
- ・ これまで交流してきた中国の環境NGOの現在の取組み・これからの展望を把握し、あおぞら財団の国際交流活動における経験知としてとりまとめる。
- ・ 国内外の公害・環境問題の専門家、NGO、個人との協働の下、資料の翻訳、情報発信、視察、交流、研修受入れなどを実施する。

71 国際翻訳基金

73 日中交流

① 事業のねらい

- ・ 西淀川地域、及び、我が国の公害経験を世界、とりわけアジア地域の多くの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、直面している公害・環境問題の解決に向けて取り組む。

② 実施内容

- ・ 中国：アジア研究会（オンライン）にて10月15日（土）に講演会を実施。
- ・ 中国：環境NGOメンバー4名が来日し、研修受入れ（12/17～19）、日中環境サロン2023（12/17）を開催した。
- ・ インドを訪問（1/10～20）し、デリーにて環境活動を行っている弁護士事務所（LIFE）のRahul Choudharyにヒアリングを行う。
- ・ ベトナムを訪問（2/21～28）し、ハノイでは、これまでも交流のあった環境NGO・Live&Learnを訪問、また、環境活動家のTranHuyAnhよりヒアリングや同氏が関わった公園の視察を行なった。ホーチミンでは、Hochiminh City University for Natural Resources and Environmentにて、同校のNguyen Ngoc Thup氏とDinh Thi Thu Haさんよりホーチミン市の環境状況について話を伺う。

③ 成果と課題、今後に向けて

- ・ 新型コロナの影響が軽減し、往来が可能となったことから4年ぶりに中国から環境NGOの訪日・交流を行うことができた。
- ・ また、ベトナムへの再訪・交流、インドに初めて訪問・交流を行うことができた。
- ・ 同結果についてはホームページにて情報発信を行い、アジア圏での環境ネットワークづくりを引き続き進めていく。

III. 情報発信・提案活動・交流

1. 情報発信

1) ホームページ、フェイスブック

【概要】ホームページでは、各事業の取り組みを中心に更新しており、フェイスブックとツイッターと連動させることで、情報を広く伝えられるように努めている。

【実績】ブログは151件の記事を更新している。フェイスブックページは1,220人、ツイッターは857からフォローされている。

2) メール、メーリングリスト

【概要】1か月間の活動報告及びイベント案内をまとめた「月刊あおぞら」を毎月1回発行している。また、イベントごとに「あおぞら express」を発行し、参加を呼び掛けている。

【実績】「月刊あおぞら」、「あおぞら express」2,264人に発行している。

3) 機関誌りべら

【概要】会員および西淀川区内の地域住民に対して、各事業の報告、財団の事業に関わる情報、行事のお知らせ、西淀川区の地域情報から構成する機関誌りべらを発行する。

【実績】2023年度は年3回発行予定（各2,000部）。7月号「2022年度あおぞら財団年次報告」を発行した。10月号「地域の交通をグリーンに!」、2月号「特集：福駅周辺を盛り上げ隊!」を発行予定。

4) 年次報告書

【概要】財団の事業と活動をわかりやすく報告するため、財団事業の1年間の事業概要と各事業における特徴的な事業を取り上げた年報を発行し、賛助会員への配布、HP上での公開を行う。

【実績】機関誌りべらとして発行することにより、西淀川地域住民にあおぞら財団の活動内容を伝えることをめざした。事業ごとに2022年度の取組みを2ページで紹介した。また、財団役員および協力者からの一言コメントをもらった。

2. 提案活動

- 各種計画へのパブリックコメントや選挙時の公開質問状提出などの提案活動、様々な公害・環境問題に関する情報、財団活動に関する情報の発信を進める。

3. 交流

- 各事業に個別に協力を得ている研究者のネットワーク化をはかり、財団が市民と研究者団体をつなぐパイプ役を果たせるような仕組みづくりをめざしている。
- エコネット近畿・ESD近畿会議への参加。
- 公害被害者総行動デーは、オンライン開催となり運営の協力をおこなった。その他、2月の公害デーへの協力をはじめ各地の公害被害者団体や、地域の環境再生に取り組む団体や市民との交流をすすめる。

- 西淀川区との協働（西淀川区と民間企業等との共創に関する提案事業）、気候ネットワークや公害環境デーの実行委員としての活動、日本野鳥の会、ECO まちネットワークよどがわをはじめとする地域の各種団体との協働、連携を続けている。

4. 対外活動

- 西淀川区区政会議委員（鎗山、2017年～2020年、藤江、2021年～）
- 西淀川子どもセンター理事（藤江、2013年～）
- 社会福祉法人あゆみ福祉会評議員（村松）、理事（藤江）として参加
- 公益財団法人淀川勤労者厚生協会理事（藤江）として参加（2020年～）
- 西淀川区地域福祉計画推進委員（藤江、2018年～）
- 西淀川区子育てを応援する担い手育成・地域連携事業 委員（谷内、2018年度～）
- 向日市地域公共交通会議 委員（谷内、2014年度～）
- 城陽市地域公共交通会議 委員（谷内、2016年度～）
- 香芝市地域公共交通会議 委員（谷内、2019年度～）
- 堺市地域公共交通会議 委員（谷内、2020年度～）
- 堺市地域公共交通活性化協議会 委員（谷内、2022年度～）
- 大阪市路上喫煙対策委員会 委員（谷内、2020年度～）
- 東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員（藤江、2010年度～）
- 2023年公害環境デー実行委員（谷内）
- 西淀川フードバンク実行委員会（鎗山）
- 西淀川公害患者と家族の会 監査（谷内、2022年度～）

5. 財団活動に関する主な報道、表彰・顕彰など

1) 主な報道

日にち	報道機関	見出し
2023/4/21～4/27	ケーブルテレビ「ベイコム」	週刊 Bay ニュース「淀川・矢倉海岸探鳥会」
2024/3/29～	西淀川区 youtube	未来を担うSDGsのまち、西淀川区！淀川・矢倉海岸探鳥会を紹介

2) 表彰・顕彰など

- にしよど親子防災部 大阪市西淀川区社会福祉協議会より感謝状

IV. 組織

1. 理事会、評議員会

- 理事会＝第 44 回（2023 年 5 月 24 日）、第 45 回（2023 年 6 月 29 日書面決議）、第 46 回（2023 年 10 月 29 日）、第 47 回（2024 年 2 月 29 日）
- 評議員会＝第 13 回（2023 年 6 月 22 日）

2. 事務局（研究員・特別研究員）

- 運営体制の充実のため、理事長・理事・事務局長等が参加する常務会を定期的に行い、全体方針の検討をおこなった。
- 毎週 1 回の事務局会議を実施（ZOOM アプリを活用したオンラインも併用）。事前の議事提案と進行を事務局長が行い、記録を作成し、事務局全体で情報を共有。事業の進捗状況や今後の事業展開、重要事項の素案づくり、業務体制に関する調整、組織運営のあり方などを全員で討議した。
- 2020 年度 10 月に設置した外部相談窓口（桑野里美氏）の継続
- 2023 年 10 月 29 日理事会にてあおぞらビル移転検討を行うことを決め、11 月 20 日よりあおぞらビル移転検討会議を開催した（11/20、12/25、1/22、2/20）。
- 2023 年度は 3 名の研究員（正職員）の体制で取り組んでいる。

3. 会員

- 会費納入のあった会員数は個人 89（94 口）、学生 1（1 口）、法人 13（31 口）、団体 8（26.5 口）で、受取賛助会費は、1,092,000 円である。（2024 年 3 月 31 日時点）

4. ボランティア、アルバイト・スタッフ

- ボランティアについては、「りべら」発送など具体的に業務のある際にメール通信「あおぞら EXPRESS」を活用し参加を呼びかけている。
- 研究員の事業をサポートするアルバイト・スタッフについては、活動を進める上で大きな力となっている。

5. インターンシップ

- インターンシップ生は、大阪経済大学から 1 人を受け入れた。アートイベント、防災まちづくり等の事業に参加した他、自分の関心分野についての調査、提案に取り組んだ。